

## 令和5年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立御園中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

実験観察等の生徒活動を増やしたり、生徒間の話し合い活動を多くとったりしたことで、主体的な学習を促し、自らの思考を深めさせることができた。また、基礎・基本を徹底した授業を展開したことで、知識の定着が少しずつ見られるようになった。

#### (2) 課題

日常生活と理科の結びつきに対する意識が低く、理科を学ぶ有用性が伝わっていない。授業の導入段階で生徒の疑問を引き出したり、既習事項を活かした調べ学習を行ったりとすることで、理科への興味・関心を高める必要がある。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	全観点が目標値にわずかに達していない。特に、知識の問題がとれていない。	/	/
第2学年	全観点が目標値に達していないが、主体的に学習に取り組む態度は、目標値にほぼ近づいた。学力上昇傾向が見られる。	全観点が目標値に大きく達していない。特に主体的に学習に取り組む態度が芳しくなく、理科嫌いな生徒が非常に多い。	/
第3学年	全観点が目標値に達していないが、学力は若干の上昇傾向が見られる。計算問題や、日常生活との関連を読み取れない生徒が多い。	全観点が目標値に達していない。思考・判断・表現が特に低く、実験結果を分析することに苦手意識を持つ生徒が多い。	主体的に学習に取り組む態度は目標値に達している。その他の2観点は目標値に達していない。

#### (2) 分析（観点別）

##### ① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値までは到達できていない。分野によってばらつきがある。	区の平均をわずかに上回っているが目標値には届いていない。	区の平均をわずかに上回っている。理科に対する興味関心をもっている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の平均を1ポイント程度下回っている。分野によるばらつきが大きい。	区の平均をわずかに上回っている。事象を説明したり、実験結果から考察したりする力が低い。	区の平均を2ポイント程度上回っている。観察・実験の過程を理解し、意欲的に取り組んでいる生徒が多い。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の平均と同程度である。特に、生物分野の正答率は高かったが、地学分野の正答率が低かった。	区の平均を3ポイント程度下回っている。分野によるばらつきがかなり大きかった。	区の平均を2ポイント以上下回っている。日常生活と関連付いた問題に対する正答率が特に低かった。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
毎回の授業で、おさえないポイントを明確にしていく。一つ一つの知識を確実に身につけさせる。また、小テストなどを単元ごとに行い、確実な知識の定着を図る。	思考の過程を明確にすることで、自らの考えをまとめさせる。また、文章による出題も慣れさせていくことで思考問題になれさせる。	身近な事物・現象と学習内容を関連づけ、生徒の興味・関心を高める。また、観察・実験を多く取り入れ、学習意欲の向上を図る。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
毎回の授業で、おさえないポイントを明確にしていく。一つ一つの知識を確実に身につけさせる。また、小テストなどを単元ごとに行い、確実な知識の定着を図る。	思考の過程を明確にすることで、自らの考えをまとめさせる。また、引き続き文章による出題になれるため文章題を取り組んでいく。	身近な事物・現象と学習内容を関連づけ、生徒の興味・関心を高める。また、観察・実験を多く取り入れ、学習意欲の向上を図る。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業はじめに、復習の時間を設けたり、単元ごとの小テストを行ったりすることで、知識の定着を図る。また、振り返りシートを活用し、学習の軌跡がわかるようにする。	仮説実験の過程を明確にし、考察など、自らの考え表現する機会を多く担保する。また、問題演習等の時間も確保し、グラフや計算等の思考力の底上げを図る。	また、生徒にとって身近な現象や物体を例に取り上げ、日常生活との関連を意識させる。既習事項を活用した調べ学習を取り入れ、身近な問題を探究する力を養う。